

ビジネスデザイン研究科ビジネスデザイン専攻カリキュラム・マップ

DP (教育目標)

- DP 1 広い視野と深い学識を持ち、高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力及び専攻分野における研究能力を修得し、活用することができる。
- DP 2 高度の専門職業人に必要な知識・能力・倫理観を修得し、活用することができる。
- DP 3 市場の変化と消費者インサイトを見極め、企業が目指すミッション・ビジョン・バリューに基づきブランディングを実行し、ビジネスコミュニケーションをデザインすることができる。
- DP 4 時代と社会のニーズに応じて価値を創造し、新しいビジネスモデルを探索し構築することができる。

科目群	科目名	サブタイトル	単位数	科目区分	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	SDGs該当項目
ビジネスデザイン基礎論	ビジネスデザイン基礎論a	研究調査法	2	選択	今後の社会経済システムの変革を見据えて、事例・調査・研究を踏まえ、自分のキャリアデザインと関連させながら、斬新的な問題提起を行う。問題解決への仮説を探索し、説得力のある分析フレームワークを構築する。	◎	○			9
	ビジネスデザイン基礎論b	ロジカルライティング	2	選択	ロジックの特徴を理解した上で、先人がさまざまに開発してきた思考法、発想法を紹介して、皆さんの論文執筆、さらに今後の実社会で役に立つ発想について紹介していく。その過程では、実際にいくつかの発想法に基づいた実習も取り入れる。	◎		○		9
	ビジネスデザイン基礎論c	組織論	2	選択	組織均衡と組織目標を学び、組織と環境との関係を学び、受講生の積極的な参画によるディスカッションで組織論の理解を深めることとする。	◎		○		9
	ビジネスデザイン基礎論d	マネジメント原理	2	選択	経営のもととなる企業組織の構造や経営管理論、ビジネス遂行における経営戦略や国際経営と日本の経営の特徴などをおさえながら、これからの経営におけるポイントについて、ディスカッションをとおして重要事項を修得していく。	◎		○		9
	ビジネスデザイン基礎論e	マーケティングマネジメント	2	選択	マーケティングの基礎理論と分析フレームワークを学び、ソーシャルメディア時代のマーケティング、価値共創(コ・クリエーション、value Co-Creation)戦略、共有の経済、サブスクリプションモデル、O2O(Online to Offline)戦略、MaaS(Mobility as a Service)、D2C(Direct to Commerce)ブランド、顧客価値・顧客体験の創造などの最新のデジタルマーケティングについても考察する。	◎		○		9
マネジメントサイエンス	国際経営管理論		2	選択	経営管理論(組織論、戦略論含む)に関する講義とケースディスカッションを中心に行う。講義では、経営管理論の基礎知識について整理したのち、グローバルな事業展開をしている日本の企業事例を取り上げ、グループ発表などを課す。	○	◎	○		8
	人材戦略論		2	選択	本講義の前半では、人材マネジメントの諸機能と日本企業における人事制度・人事施策について概説する。後半では、近年の環境変化に応じた課題をとりあげつつ、日本の雇用システムの特徴や変化についても焦点をあてる。	○	◎	○		4,8
	管理会計論		2	選択	経営管理や意思決定等の経営に必要な管理会計を理解し、技法だけでなく具体的な事例を学習することにより管理会計に関する実践的な知識を身につけることを目標としている。	○	◎	○		9
	コーポレートファイナンス		2	選択	適切な企業価値評価が各自できるようになるために、特定の企業を選定し、当該企業の企業価値評価、財務戦略と企業価値創造の戦略を分析・検討していく。	○	◎	○		9
	グローバルマーケティング		2	選択	グローバルマーケティングに関する講義とケースディスカッションを中心に行う。講義では、マーケティングの基礎知識について整理したのち、グローバルマーケティングに関する企業事例などを取り上げ、グループ発表などを課す。	○		◎		8
	デジタルマーケティング		2	選択	デジタル社会では必要不可欠なデジタルマーケティングの概念や手法、マネジメントなどを具体的な事例を紹介しながら修得する。	○		◎		8
	ソーシャルテクノロジー		2	選択	「ソーシャルテクノロジー」の歴史、特性、社会的位置付け、そして活用法について、事例をもとに考える。それによって、受講者が、各自でソーシャルテクノロジーに対する基本的認識と、その活用方法に対する戦略イメージを確立することを到達目標とする。	○		◎		9
	ビジネスセミナーa		2	選択	今まさに動いている先端的なビジネス事例について担当責任者から直接解説を聴き、ディスカッションを通じて深い理解を得るとともに、各々が学ぶ各教科の実践イメージの形成を促す。	○		◎		9
ビジネスセミナーb		2	選択	今まさに動いている先端的なビジネス事例について担当責任者から直接解説を聴き、ディスカッションを通じて深い理解を得るとともに、各々が学ぶ各教科の実践イメージの形成を促す。	○		◎		9	
ビジネスコミュニケーション	ビジュアルコミュニケーション		2	選択	プレゼンテーションの能力育成のために、プレゼンテーション能力の高いカリスマ経営者でもあるスティーブジョブズのプレゼンテーションを分析する。コミュニケーションは、縦の論理、横の論理など論理的に物事を捉え伝えることも必要のため、ロジカルシンキングの演習を通じてプレゼンテーション能力の向上を図る。	○		◎		8
	コーポレートコミュニケーション		2	選択	企業の社会的役割を明らかにし、企業における経営資源と情報を企業内・企業外の利害関係者にどのように発信・受信していくのか。情報の有効活用について学び、広報機能に関する基本的な考え方を事例を交えながら修得する。	○		◎		8,12
	デザインマネジメント		2	選択	ビジネスを創出する上で必要な、現場や顧客の抱える課題の構造化、ビジネス仮説の導出方法、ビジネス仮説の検証方法等を演習を交え解説する。	○		◎		8
	広報広告戦略		2	選択	仮の広告プロモーション課題に対してのグループワークを実施する。日頃から企業の広報活動や広告(テレビCMをはじめとするあらゆる宣伝広告)に関して興味を持つように心がけて授業に臨んでほしい。	○		◎		8
	ビジネスモデルデザイン		2	選択	ビジネスモデル構築のスキルと未来志向の事業立上げの手法を学び、ビジネスモデルを構成する要素を多方面に考察し、ビジネスモデルに対する本質的理解を深める。次に、様々なビジネスモデルのケーススタディを通じてビジネスモデルの差別化を理解し実践知を身につけることを目的とする。	○		○	◎	4,9,12

ビジネスモデルデザイン	コミュニティデザイン		2	選択	参加型授業として、講義+「グループワーク」「フィールドワーク」「プレゼンテーション」「ホームワーク」を組み合わせる。それらの思考を他者と共有するツールとして、SDMのベースとなる「システム思考」×「デザイン思考」を応用する。	○		○	◎	9
	ブランドマネジメント		2	選択	企業が価値を創造し持続可能性を保持するためには、ブランド戦略が重要である。ブランドが創造する価値の次元も、自出保証や製品価値から、感性価値、関係体験価値、共創価値へと高まっている。本講義は、今後の企業価値を創造するブランドマネジメントの重要性と方法を理解し、実際に企業活動の中に生かすことができるよう学ぶ。	○		○	◎	9
	IT戦略マネジメント		2	選択	インターネットメディア関連のビジネスを管理し、ビジネスにおけるIT（情報技術）戦略を管理する際に前提となる各種の基本知識を修得する。	○		○	◎	9
事例研究・表象文化	事例研究a	グローバル経営	2	選択	ビジネスの最前線で活躍する企業人から直接話を聞き、提示される実践的なミッションをグループで討議し、回答を形成していく中で問題解決力を養う。	○		○	◎	9,12,17
	事例研究b	日本企業	2	選択	ビジネスの最前線で活躍する企業人から直接話を聞き、提示される実践的なミッションをグループで討議し、回答を形成していく中で問題解決力を涵養する。ビジネスの課題を把握する能力、そのソリューションを考える創造力、仲間に対応する協調性がポイントである。	○		○	◎	9
	事例研究c	多国籍企業	2	選択	多国籍企業に関する理論や実証分析の動向を解説する。事例分析として、90年代以降、積極的に製造業分野を中心に海外事業を展開する日系多国籍企業、及び近年、欧米や発展途上国に先端技術や資源開発、製造分野などに幅広く展開する中国系多国籍企業の動向を考察し、多国籍企業の活動とその経済的影響・成果について議論する。	○		○	◎	9
	事例研究d	経済	2	選択	「経済」や「経営のための経済理論」を学ぶために、日本経済の現状の課題について分かりやすく解説する。テキストに基づき授業を進めるが、併せて関連文献や最新の情報を提示して、日本経済の諸課題に関する知識を深めることを目標にする。	○		○	◎	9
	事例研究e	企業マネジメント	2	選択	ビジネスの最前線で活躍する企業人から直接話を聞き、提示される実践的なミッションをグループで討議し、回答を形成していく中で問題解決力を涵養する。ビジネスの課題を把握する能力、そのソリューションを考える創造力、仲間に対応する協調性がポイントである。	○			◎	9
	事例研究f	新規事業開発	2	選択	参加型授業として、講義+「グループワーク」「フィールドワーク」「プレゼンテーション」「ホームワーク」を組み合わせる。それらの思考を他者と共有するツールとして、SDMのベースとなる「システム思考」×「デザイン思考」を応用する。	○			◎	9
	プロジェクト研究a		2	選択	少人数で、2冊程度の経営学の学術書を精読し、かつ、その精読の成果をレジュメにして参加者に説明する。	○			◎	11
	プロジェクト研究b		2	選択	少人数で、3冊程度、経営学等の学術書、もしくはそれに類する書籍を精読する。毎回、事前に各自読み、レジュメを作成し、講義内に発表し、討議をする。	○			◎	11
	表象文化研究a		2	選択	既存の作品の特異性に即して作品を分析する方法を考えます。作品そのものを徹底して分析することを含め、作品の生成過程も踏まえながら、より作品に即した解釈と分析を考えることにします。それぞれの作品に込められた創作の仕掛けを解き明かす方法について考察します。	○			◎	9
	表象文化研究b		2	選択	西洋美術がどのような変遷を辿り発展してきたか、それらを明確にすることにより、現在のアート市場の構造を考察していく。	○			◎	9
	視覚文化論a		2	選択	本講義は、映像を視る力を養い、映像に関わることがらを言葉で発信する力を鍛えることを目的とする。	○			◎	9
	視覚文化論b		2	選択	本講義は、映像を視る力を養い、映像に関わることがらを言葉で発信する力を鍛えることを目的とする。	○			◎	9
	映像文化論a		2	選択	日本映画の特色を海外からの反響を通じて、比較文化的に考察する。世界の映画と比較することで、日本映画及び日本文化の特色を明らかにしてゆく。これらのプロセスを経て、映画を鑑賞し、批評を実際に書いてもらい、言葉を駆使して日本文化の魅力を理解し、自己表現の世界を充実させてゆくことを目標にする。	○			◎	9
映像文化論b		2	選択	日本映画の特色を海外からの反響を通じて、比較文化的に考察する。世界の映画と比較することで、日本映画及び日本文化の特色を明らかにしてゆく。これらのプロセスを経て、映画を鑑賞し、批評を実際に書いてもらい、言葉を駆使して日本文化の魅力を理解し、自己表現の世界を充実させてゆくことを目標にする。	○			◎	9	
修士論文・演習	論文演習I		2	必修	論文演習は、修士論文作成に必要な研究プロセスの解説と学生研究の助言を行う場である。特に、研究テーマの設定方法、研究テーマに関する課題分析および課題設定（Problem Statement）、研究目的、先行研究の調査方法、新規性と実用性、仮説に対する検証方法など研究に必要なプロセスを演習を交え解説する。	○	○		◎	4,8,9
	論文演習II		2	必修	論文演習は、修士論文作成に必要な研究プロセスの解説と学生研究の助言を行う場である。特に、研究テーマの設定方法、研究テーマに関する課題分析および課題設定（Problem Statement）、研究目的、先行研究の調査方法、新規性と実用性、仮説に対する検証方法など研究に必要なプロセスを演習を交え解説する。	○	○		◎	8
	日本語プレゼンテーション技法		2	選択	身近な話題から、社会的に議論のある大きなテーマまで、幅広い題材を用いてのプレゼンテーション演習を行い、プレゼンテーションの基本概念と基礎的な技術を学ぶ。	○				

通 分 科 野 目 共	日本語ライティング技法		2	選択	本講座は基本的に、留学生を対象に実施する。この講座では、論文作成のための必要な技能を実践的に学びながら、効果的な日本語ライティングの技法を身につけることを目的とする。	○				
----------------------------	-------------	--	---	----	---	---	--	--	--	--

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナリシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」